

SHOW HEYシネマルーム



Data
監督: ジョー・ジョンストン
出演: ベニチオ・デル・トロ/アンソニー・ホプキンス/エミリー・ブラント/ヒューゴ・ウィーヴィング/ジェラルド・イン・チャップリン

👁️👁️ みどころ

若者「ドラキュラ」が増殖する昨今、重厚な「狼男」が登場！満月の夜、「死を悼む身の毛もよだつその雄叫び」はどのように響きわたるの？また、忌まわしい過去に彩られた、父と子の物語はどんな展開を？

二大俳優の「心理対決」と「肉体の激突」に注目しながら、呪いに打ち勝つ愛の姿を模索したい。しかして、必然的に導かれる悲しい愛の結末とは？

* * * * *

一体どちらが主演？

「ウルフマン」くらいの単語なら、中学1年生でもすぐに「狼男」と訳せるはず。そしてベニチオ・デル・トロとアンソニー・ホプキンスの共演と聞けば当然、『トラフィック』（00年）『21グラム』（03年）そして『チェ 28歳の革命』（08年）『チェ 39歳 別れの手紙』（08年）等に出演しているベニチオ・デル・トロが主演だと思うはず。もっとも、『羊たちの沈黙』（91年）以降アカデミー賞候補の常連となっている、1937年生まれのアソニー・ホプキンスも今なお元気で、存在感抜群。日本でいえば、さしずめ仲代達矢のような存在だから、ひょっとしてこちらが主演？プレスシートのイントロダクションでは、主演がアンソニー・ホプキンス、共演がベニチオ・デル・トロと書かれているが、キャストの配置はベニチオ・デル・トロの方が先。こりゃ、一体どちらが主演？

ドラキュラから再び狼男に焦点が

日本では狼男やドラキュラ、フランケンシュタイン等のお話は馴染みが薄いですが、ヨーロッパでは1941年に公開された名作『狼男』によって、映画界における狼男の神話を不

動のものにしたい。今から70年も前のことだ。これによって、「死を悼む身の毛もよだつその雄叫び」という決めゼリフとともに「狼男」のイメージが定着してほしい。最近『トワイライト～初恋～』（08年）や『ダレン・シャン』（09年）等の大ヒットのおかげで、狼男よりもドラキュラに人気が集まっているが、ベニチオ・デル・トロとアンソニー・ホプキンスという二大重量級俳優の起用によって、再び「狼男」に焦点が？

25年ぶりの父子再会は？

本作の時代設定は1891年。日本では1894年に始まった日清戦争の直前だ。25年ぶりに父ジョン・タルボット卿（アンソニー・ホプキンス）と息子ローレンス・タルボット（ベニチオ・デル・トロ）が再会するのはローレンスの生家であるタルボット城だが、その城のデカさは並大抵ではない。いち早く産業革命を起こしたイギリスでも、ブラックムーアという田舎にはあの時代でもまだあんな封建領主が存在していたわけだ。

アメリカで舞台俳優をしていたローレンスが急遽戻ってきたのは、兄ベンの婚約者であったグエン・コンリフ（エミリー・ブラント）から、ベンが行方不明になったので至急戻ってほしいという緊急の手紙をもらったため。しかし25年ぶりの父子再会にもかかわらず、タルボット卿の出迎えは母の死をきっかけに父子関係が疎遠になった時と全く変わらず、冷たいものだった。また、ローレンスの到着前日に発見されたベンの遺体は、肉を削がれた無惨なもの。誰が一体こんなことを？グエンの求めによってローレンスは兄殺しの犯人追及を誓ったが……。

いつ、どこで、どんな姿を？

二大俳優が出演している本作ではその演技のぶつかり合いが見どころだが、同時にいつ、どこで、どんな姿の「ウルフマン」が登場してくるかも見どころ。ローレンスがベンの遺留品だったメダルをヒントに犯人捜しに向かったのは、メダルをベンに売った流浪民のキャンプ。その日は折しも満月の夜だったが、ブラックムーアの村にある、満月の夜には謎の殺人鬼が出没するという不吉な伝説どおり、この日キャンプに惨劇が起きたから大変。

キャンプを襲った殺人鬼の姿をチラッと見たローレンスは銃を持って追跡したが、殺人鬼の返り討ちにあってあえなくダウン。首から肩にかけて瀕死の重傷を負わされることに。これにて一巻の終わりという状態を助けたのは、流浪民の老婆マレーバ（ジェラルディン・チャップリン）だったが、さてローレンスを襲った殺人鬼の姿は？それは、この時点ではチラリとしか見せてくれないから、今後のお楽しみだ。他方、タルボット卿や村人たちの心配をよそに、ローレンスのケガは意外にも急回復。こりゃマレーバの治療の効果ではなく、人間の力を超えた何か異様な働きがあるのでは？ああ、なるほど……。

『ハルク（HULK）』（03年）では、実験室内のあるアクシデントから超人ハルクが生まれたが、ウルフマンが生まれたのはなぜ？そして、ウルフマンがその姿を見せてくれ

るのは、いつ、どこで？さらに、美術や特殊メイクの粋を尽くしたその姿とは？

この男女の愛は少し不自然

日本は日清戦争、日露戦争、太平洋戦争を経験してきたが、夫が兵士として戦死した場合、残された妻が亡夫の兄や弟と再婚したケースは意外に多い？ちなみに、スサンネ・ピア監督の『ある愛の風景』（04年）や、それをハリウッド型にリメイクした『マイ・ブラザー』（09年）では、模範的な夫でありかつ英雄的な兵士であった兄が死亡したという報告を受けた後、出来の悪い弟が残された妻や子供たちに誠意を尽くす中で生まれてくる微妙な人間関係がテーマだった。しかし本作では、死亡した兄の犯人捜しの中で大きな痛みを受けたローレンスと、残された婚約者グエンの間にどんな人間関係が？

イギリス生まれの演技派女優エミリー・ブランドを起用しているのだから、当然ローレンスとグエンとの間に生まれてくるはずの男女の愛の姿が見モノだが、自分自身の身体の異変に気づいたローレンスがグエンをタルボット城からロンドンに帰らせたのは一体なぜ？また、ロンドンでひと暴れ(?)したローレンスがグエンの元を訪れて、すべてを打ち明けたのは一体なぜ？さらに、最後の対決のために再びタルボット城に戻ろうとするローレンスを、グエンが追いかけていったのは一体なぜ？

これらのストーリー構成には当然それなりの説得力はあるのだが、あえてケチをつければ、婚約者であったベンの死亡からあまり日を経っていないうちにグエンの気持がローレンスに移っていくのは少し早すぎるのでは？そう考えると、この男女の愛は少し不自然。

ウルフマン対決の行方は？悲しい愛の結末は？

この手の映画の根本的欠陥は、映画が始まるとすぐにストーリーが見えてくること。もっとも、仮に私が今年小学6年生になったばかりと想像して本作をみれば、きっとしばらくは夜も眠れないほど興奮するだろうが、61歳にもなるとウルフマン対決にもあまり興奮しなくなってくる。とは言っても、本作最大の映像的ハイライトは目の前で展開されるローレンスとタルボット卿のウルフマンへの大変身と、新旧ウルフマンの直接対決だから、それはあなた自身の目でしっかりと。

他方、グエンがタルボット城へ駆けつけてきたのは愛の力によって呪いを解く方法を模索するためだが、今や狂暴なウルフマンと化し、親ウルフマンさえやっつけてしまった息子ウルフマンは手のつけようなし？そう思うのが当然だが、さてグエンは？ギリギリまでウルフマンを追い詰めたのは、終始冷静な捜査を進めてきたアバライン警部（ヒューゴ・ウィーヴィング）だが、今グエンの手にはアバライン警部から手渡された拳銃が。「私よ、グエンよ」と必死で訴えるグエンを、果たしてウルフマンは認識することができるのだろうか？迫ってくる追手の前でウルフマンに組み敷かれたグエンが下した決断とは？そして、悲しい愛の結末とは？

2010（平成22）年5月6日記